

平成26年度 学校評価(考察)

A: 平均値の90%以上(3.6以上)

C: 70%未満(2.8未満)

以外はBとして扱います。

評価項目		学校	保護者	考察・改善の方針
学校と地域の目標	1(1) 児童は、「思いやりのある子」になっている。	3.03	3.38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々を見れば、高い評価になる児童もいるが、なっていない児童もいるので、そこに目が行き評価を下げてしまう。評価する際の基準が難しい。例えば「思いやりのあるクラスになっている」という評価項目であればもっと良い評価になると思う。保護者は我が子のみ評価している。(本部)</li> <li>・できている子、分かっている子は多いが、いつもできるようになることが課題(1年)</li> <li>・弱い立場の児童に対しての、優しさを発揮できる児童が多い。今後は、思いやりとはどういう物なのかを学んでいくことが必要。(4年)</li> <li>・思いやりのある子は多くいるが、友達同士の関わり合いの中で思いやりに欠ける児童がいるのが事実である。教員はマイナス面に多く目が行くので、保護者の評価と開きがあると考える。(5年)</li> <li>・思いやりのある子が多いが、もちろんそうでない子もいる。保護者は集団の中のわが子が見えにくいので、評価が低いのではないかと。(2年)</li> </ul>
	1(2) 児童は、「明るくあいさつのできる子」になっている。	2.28	3.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)同様、できている子も中にはいるが、挨拶をしない児童が目が行き、低い評価になってしまう。(本部)</li> <li>・保護者と教職員の差が大きいのは、引き続き指導が必要だということだと思う(さくら)</li> <li>・いつでも、どこでも自分からあいさつの徹底。一時的なものではなく定期的に力を入れていく必要がある。(4年)</li> <li>・個人差がある。家族間の挨拶は日常していると思われるが、関わり合いの少ない人へ自分から挨拶することできない。(5年)</li> <li>・学校の目指すあいさつと保護者の「できる」という評価が一致していないので、同じ目線に立って指導したい。(2年)</li> </ul>
		C	B	
	1(3) 児童は、「地域を大切にしている子」になっている。	3.00	3.04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもち「地域を大切にする子」とするのか、具体的な評価基準がないので、難しい。(本部)</li> <li>・地域の行事に参加している子は多い。(1・2・5年)</li> <li>・地域を大切にする子の目標達成の基準がわからない(6年)(2年)</li> </ul>
		C	B	
1(4) 児童は、「意欲的に学ぶ子」になっている。	2.97	3.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の評価が低いので、自分の授業を振り返り児童の学習意欲が高まるよう授業の工夫・改善に努める必要がある。(本部)</li> <li>・個人差はあるのは家庭でのほたらきかけが大きい。「意欲的」とらえ方に学校と家庭で違うため、差が出たのではないかと。(1年)</li> <li>・学習に取り組む姿勢には個人差が見られる。特に高学年は、学習の習慣が身につけていない児童ほど、意欲が低くなり「学習がわからない」という気持ちが意欲面に影響を及ぼしていると考えられる。(5年)</li> <li>・できることが増えてくると意欲的になるので、できる子を増やしていく授業作りに努めていく。(2年)</li> </ul>	
	B	B		
2 児童は、友達と仲良く学校生活を送り、学校を楽しみにしている。	3.34	3.61	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目の内容が、前半は教師も評価できるが、後半は保護者向けの文になっている。保護者の評価が高いのは、良いことである。(本部)</li> <li>・子どもが楽しみにしていると保護者にも反映している。</li> <li>・学校を楽しみにしている子が多いのは、喜ばしいこと(1年)</li> <li>・子どもが学校を楽しんでいることが保護者にも伝わっている(2・4・5年)</li> </ul>	
	B	A		
学校の組織運営	3 学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	3.35	3.38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの評価も同程度で、共通認識できている。(1年)</li> <li>・組織的に取り組むことができている。(5年)・保護者の評価が高いということは、教職員が組織で動いているのが伝わっていて良いことだと思う。(2年)</li> </ul>
		B	B	
	4 学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	3.50	3.36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの評価も同程度で、共通認識できている。さらに整えていきたい(1年)</li> <li>・毎月、安全点検で設備点検ができている。(5年)</li> <li>・最悪の状況を想定して、統一行動がとれるように訓練していく。(2年)</li> </ul>
		B	B	
	5 学校は、清掃活動や掲示教育等、環境美化に努めている。	3.24	3.36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若干低いので、掲示に関して学校全体での計画的な体制があると良い(1年)</li> <li>・学年以外の掲示物の場所を分担してはつきりさせると、掲示教育がもっと充実するのではないかと。(2年)</li> </ul>
		B	B	
6 学校は、お子さんのことなどについて相談に努めている。	3.64	3.41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と保護者の間に若干差がある。今後も密に連絡をとっていく(1年)</li> <li>・児童の実態によって保護者の認識に差があるのではないかと(4年)</li> <li>・学校は教育相談等で児童の相談に努めている。(5年)</li> <li>・心配なお子さんには、声をかけて保護者との連携を図っている。(2年)</li> </ul>	
	A	B		

評価項目			学校	保護者	考察・改善の方針
基礎学力の定着	7	児童は、基礎学力を身に付けている。	3.00	3.29	○基礎学力向上するために、少人数学級などを充実させる。 ・基礎学力がついている児童が多い。家庭の協力がある（1年） ・学年が上がるにつれて差が開く。家庭の協力も得にくくなっていく（4年） ・基礎学力は個人差がある。高学年になるほど、回復指導が困難になってくる。（5年） ・個人的能力の差を配慮し、基礎学力をつけていく。（2年）
			B	B	
	8	学校は、学力向上をめざし、児童の実態に基づいて授業改善に努めている。	3.41	3.28	・この項目の文は「努めている」かどうかを聞いているので、教員はAの評価にしなければならないと思う。（本部） ・今後も努力を続けていく（1年・2年・4年・5年）
B			B		
9	学校は、学習規律の確立に努めている。	3.34	3.36	・努めてはいるが、10番との関連で、努めていても身につけているかどうかを考えるとこのような評価になるのかもしれない。（本部） ・学習規律は比較的身につけている（1年） ・今後も努力を続けていく（2年・5年）	
		B	B		
規律ある態度の育成	10	児童は、「規律ある態度」（時刻を守る・整理整頓・言葉づかいなど）を身につけている。	2.79	2.84	・規律ある態度と言っても「時刻を守る」等はできているものもある。本部としては、学習規律が気になっている。これだけは守らせるという学校として統一した目標を掲げ、共通理解のもとに取り組む必要がある。学級によっていろいろなルールなどがあり、指導に困ることがある。（本部） ・学校と家庭の判断の基準が違う。 ・どちらの評価も同程度で、共通認識で指導していきたい。言葉づかい、挨拶は特に重要（1年） ・時と場合に応じた言葉遣いができる児童は多いと思う。指導すると守ろうとする児童も多い。その他の面を考えるとこの評価がつく（4年） ・ノーチャイムであるのに時刻を守れている。今後とも家庭との連携を図りながら規律ある態度の徹底に努めていきたい。（5年） ・項目がたくさんあるので、取り組むべきものを1つに決めて、それを徹底していく。そうすると、良いことがだんだん広がっていくと思う。（2年）
			C	B	
11	学校は、児童の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	3.18	3.22	・努めてはいても、児童に身につけていないと思われることがあり、評価が低くなっていく。（2年・本部） ・あいさつ週間など力を入れた時はできるようになるので、今後も取り組んでいく（1年・4年・5年）	
		B	B		
健康体力の向上	12	児童は、体育の授業や体育的行事、外遊び等に意欲的に取り組んでいる。	3.03	3.31	・学スぺでごろごろしたり、チャレンジコーナーやTTRームにいる児童が多いことから、外遊びをする児童は少ないと考える。体育館使用学年になって時は、多くのその学年の児童が体を動かしているようである。（本部） ・外遊びをしている子が少ない。学級レクがあるだけではよい。 人数を数えるなど実態を把握して、外遊びを奨励する。（6年） ・持久走大会など行事があるときはがんばるが、なかなか外に出ない子もいる（1年） ・体育館には行くが、外に行くのは面倒だと考えている児童がいる。（4年） ・体育の授業、体育的行事は意欲的に取り組んでいる。意欲的な外遊びができる手立てや取り組みを考える。（2年）
			B	B	
13	学校は、児童の健康の増進や体力向上のために取り組んでいる。	3.25	3.40	・毎週、体育集会を実施したり、体育授業に講師に来ていただいたりして、力を入れて取り組んでいるので、児童の体力向上を期待したい。（2年・5年・本部） ・意欲を持てる行事や体育集会で運動への関心を高めていく（1年） ・体育集会などがあり、体力向上に向けて活動をさらに続けていきたい。また、体育集会の日が雨天の場合は教室でできるもの全校で取り組めばよいのではないかと（さくら） ・柔軟に関しては学年で取り組んでおり、少しずつ成果が出ている（4年）	
		B	B		
連携	14	学校から家庭への連絡は、分かりやすく行われている。	3.31	3.36	・学校より保護者の方が高いことは、良かった。（2年・本部） ・どちらの評価も同程度で、努力していることは共通認識できている。（1年） ・メール配信等を活用しながら、家庭との連絡を充実させている。（5年）
			B	B	
	15	学校は、保護者や地域と連携して、学校運営や教育活動を進めている。	3.43	3.35	・地域の方との行事も多く、連携は保護者にも理解されている（1年） ・行事をはじめ、保護者の協力のもと多様な教育活動ができている。（5年） ・町たんけんでは、地域のお店や保護者と連携して取り組むことができた。（2年）
B			B		
16	学校は学社連携の教育の推進と融合施設環境の活用に努めている。	3.47	3.44	・年度始めに、遊学館や図書館の方との顔合わせがないのでわからない方が多い。お互い、知らない方や知らない場所もある。（本部） ・ふれあい祭りや命の学習など志木小独自の活動を子どもが経験することでより視野の広い子供になると考える。（2年・6年） ・遊学館との行事も多く、連携は保護者にも理解されている（1・5年） ・総合学習や社会科学習で身近にある公共施設とのかかわりをもっている（4年）	
		B	B		